

脱炭素社会の実現を目指して！！

森林・林業・木材産業、住宅業界の役割、役立ちは！？ [I]

あすなる会顧問
株式会社 山西 代表取締役社長 西垣 洋一

「脱炭素」、「カーボンニュートラル」とは (右図参照)

世界各地で地球温暖化の影響による猛暑、豪雨などの異常気象が多発しています。地球温暖化とは、人間活動の拡大により温室効果ガスの排出が増えて、その濃度が増すことで地球表面の温度が上がることです。「脱炭素化」とは、その地球温暖化の大きな要因となっている二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出を抑えようとする運動です。「カーボンニュートラル」とは、温室効果ガスの排出を完全にゼロにするのが難しい現状において、温室効果ガスの吸収・除去量を人類の活動のなかで発生するCO₂ (二酸化炭素)、CH₄ (メタン)、N₂O (一酸化二窒素)などの排出量から差し引いた合計をゼロにすることで、温室効果ガスの排出を実質的にゼロにすることです。

「脱炭素社会」に向けての世界の動き

2015年 フランスのパリで行われた「国連気候変動枠組条約第21回締約国会議 (COP21)」で120以上の国と地域で「パリ協定」が採択される。

- 世界的な平均気温上昇を産業革命前(1880年)に比べて2℃以下に抑えることを目標とし、1.5℃以下に抑制することを努力目標とする。
- できるかぎり早く世界の温室効果ガス排出量をピークアウトし、21世紀後半には、温室効果ガス排出量と(森林などによる)吸収量のバランスをとる。

「脱炭素社会」に向けての日本の取り組み

- 2020年10月菅内閣総理大臣(当時)「2050年カーボンニュートラル宣言」、国際公約へ
- 2013年度と比べ、温室効果ガスの排出量を2030年度までに46%削減
- 再生可能エネルギー、循環可能資源を最大限利用し、低炭素エネルギーへ転換

「脱炭素社会」の構築に向けて！！

森林・木材分野の役割、役立ち (右図参照)

- 吸収源・貯蔵庫としての森林・木材
森林はCO₂を吸収 - 樹木は空気中のCO₂を吸収して成長
木材はCO₂を貯蔵 - 木材製品として利用すれば長期間炭素を貯蔵(固定化)
- 排出削減に寄与する木材・木質バイオマス
木材は省エネ資材 - 木材は鉄等の他資材より製造時のエネルギー消費が少ない
木質バイオマスは化石燃料等を代替
マテリアル利用により化石燃料由来製品(プラスチック)等を代替
エネルギー利用(発電、熱利用)により化石燃料を代替
- 木材は循環可能資源
木材は「伐って、使って、植えて、育てる」 再生可能な低炭素エネルギー

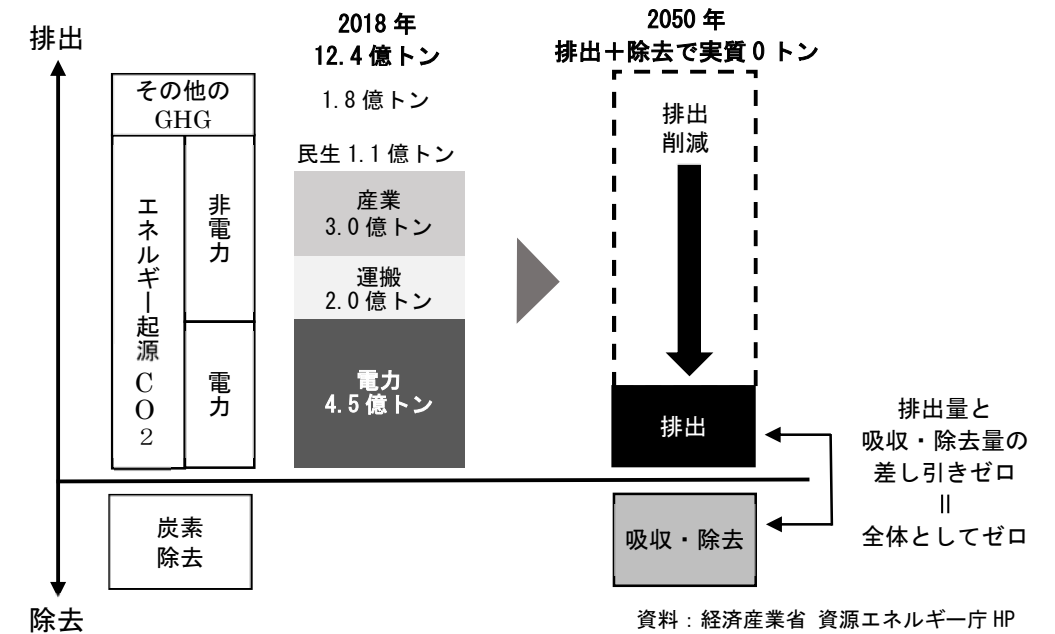
木材利用促進に向けた国の取り組み、法制度

- 「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」
「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」を改正し、木材利用促進の対象が公共建築物から建築物一般に拡大される。
- 「建築物に利用した木材に係る炭素貯蔵の表示に関するガイドライン」公表 林野庁
炭素の貯蔵量の「見える化」 → 計算式による炭素貯蔵量(CO₂換算量)の数値化

「カーボンニュートラル」への挑戦は、社会経済を大きく変革するための投資を促し、生産性を向上させ、産業構造の大転換を生み出すチャンスと捉えられ、ESG(環境・社会・企業統治)投資を促し、SDGs(持続可能な開発目標)の目標7「エネルギーをみんなに。そしてクリーンに」、目標13「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」ことへの取り組みにもなります。人類にとって脱炭素社会の実現は成し遂げなければならない大きな課題です。来月の本稿では、木材 住宅業界が、低炭素社会の実現に果たすべきことを具体的に説明させていただきます。

2050年の実現を目指す日本のカーボンニュートラル

人為的に発生した温室効果ガスの排出量と、同じく人為的に行った植林・森林管理などによる温室効果ガスの吸収量を等しくし、実質的に温室効果ガスをゼロにすることが目的。



2050年カーボンニュートラルへの森林・木材分野の貢献

森林はCO₂を吸収し、固定するとともに、木材として建築物などに利用することで炭素を長期間貯蔵可能。加えて、省エネ資材である木材や木質バイオマスのエネルギー利用等は排出削減に寄与。

